

全国漢文教育学会

第40回大会（通算70回）

令和7年(2025)6月21日(土)・6月22日(日)

【第1日】公開研究授業・研究協議

於 國學院大學久我山中学高等学校

史跡研修会

於 塙保己一史料館

國學院大學メディアセンター図書館・博物館

懇親会

於 國學院大學若木タワー 有栖川宮記念ホール

【第2日】研究発表 小・中・高の部 大学の部

於 國學院大學渋谷キャンパス5号館

シンポジウム：基調講演 討議

於 國學院大學学術メディアセンター 常磐松ホール

國學院大學久我山中学高等学校 東京都杉並区久我山1-9-1

國學院大學 東京都渋谷区東4-10-28

〈主催〉

全国漢文教育学会

〈後援〉

文部科学省

東京都教育委員会

杉並区教育委員会 渋谷区教育委員会

公益社団法人 温故学会

國學院大學

全国高等学校国語教育研究連合会 漢字文化振興協会（申請中）

会員各位
大学学長殿
小・中・高等学校長殿
国語科主任殿

来たる6月21日（土）・6月22日（日）の2日間、本年度の弊学会大会を、國學院大學久我山中学高等学校及び國學院大學渋谷キャンパスにおいて開催する運びとなりました。今大会は第40回（通算70回）の大会となります。

6月21日（土）は、午前中、公開研究授業と研究協議を、國學院大學久我山中学高等学校にて行います。午後は、史跡研修会を塙保己一史料館にて開催します。

6月22日（日）は國學院大學において、午前中には研究発表を、小・中・高校の部と大学の部とに分かれて行います。午後は、文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 上月さやこ氏の「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目「言語文化」― 高等学校国語科の必修科目における漢文教育 ―」と題しての基調講演と、「漢文教育から考える「言語文化」―その深化と展望―」を討論テーマとしたシンポジウムを予定しています。

何卒奮ってご来場下さいますようお願い申し上げます。

令和7年(2025)5月吉日
全国漢文教育学会 会長 詹 満江
大会開催校 代表 石本道明

【出席申込みについて】

- 開催形態** 対面・リモート併用のハイブリット方式
※ 但し、研究授業は、リモートでのご出席はできません。
- 大会会費** 会員 1,000円 一般 2,000円 学生 無料 ※リモートでのご出席も同額。
研究授業のみ 500円（会員・一般共通） 学生 無料
※ 学生(会員・非会員とも)は無料ですので、右QRコードで事前に申し込み下さい。
- 会員・一般** 同封の「払込取扱票」で、6月12日(木)までにお申し込みください。
- 申込方法** ※ リモートの場合は、大会会費払込を確認のうえ、入室を許可します。
※ ZoomのURLは、前日までに本学会ホームページに掲載します。

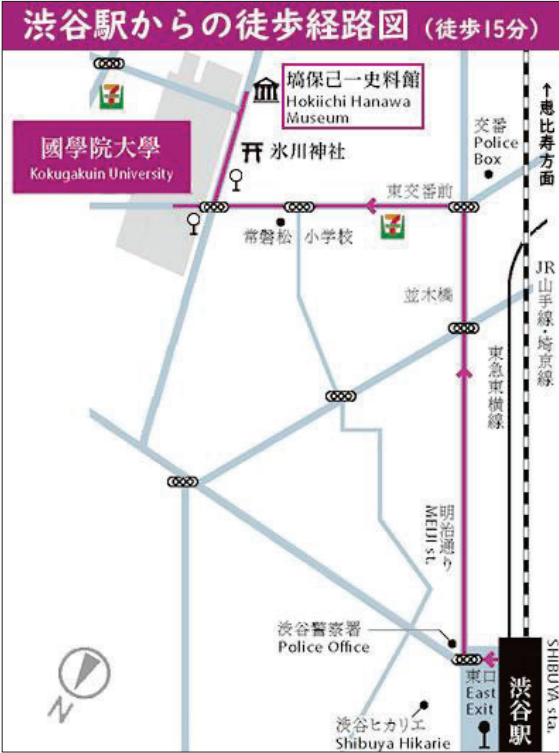


〈払込先 ゆうちょ銀行振替口座〉
・口座番号 00130-8-84978 ・加入者名 全国漢文教育学会

【「研究発表」の発表資料について】

発表資料は1週間前を目処に学会ホームページで公開いたします。
今回、会場校での資料配布はありませんので、各自で印刷してご用意いただくか、タブレット等でご覧下さい。

《 國學院大學 渋谷キャンパス 》



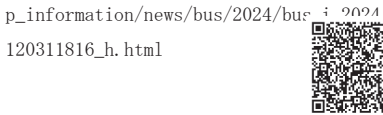
<https://www.kokugakuin.ac.jp/access>



【渋谷駅東口からバスでお越しの方】
54番のりば（「学03」系統）
日赤医療センター行き（都バス）
所要約10分「國學院大學前」下車

渋谷駅東口バスターミナルのバスのりばの変更について | 東京都交通局

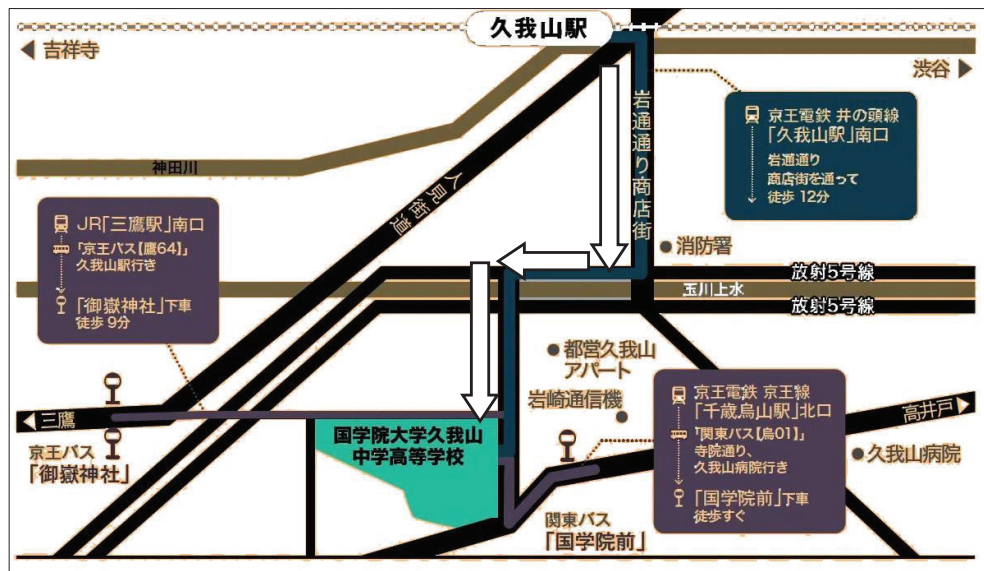
https://www.kotsu.metro.tokyo.jp/pickup_information/news/bus/2024/bus_2024_120311816_h.html



日曜日は大学周辺に開いているお店はありませんので、各自でご用意いただけると幸いです。



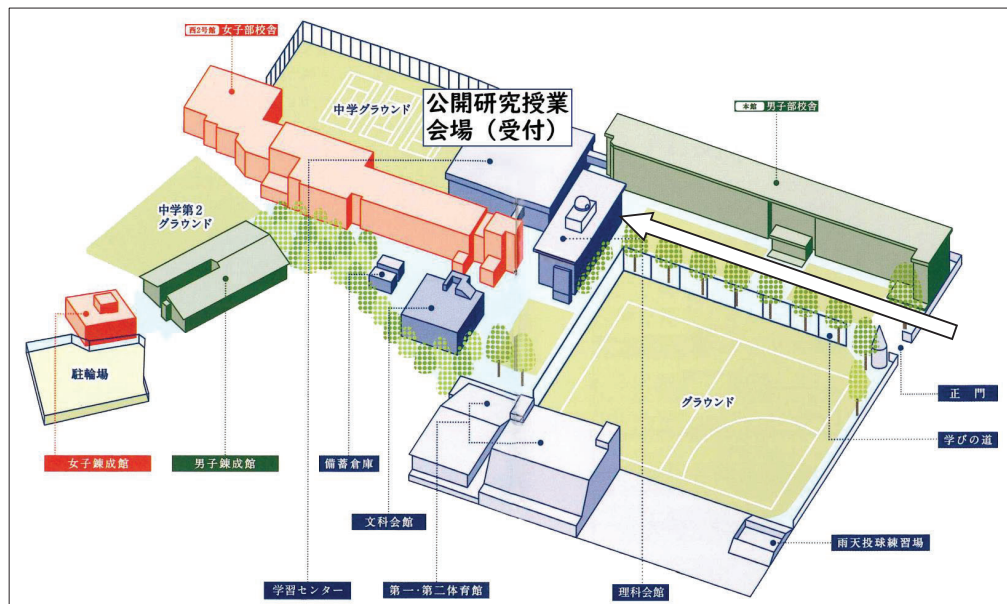
《 國學院大學久我山中学高等学校 》



<https://www.kugayama-h.ed.jp/map/>



【構内案内図】



【第1日】6月21日（土）國學院大學久我山中学高等学校⇒國學院大學渋谷キャンパス

◇受 付：國學院大學久我山中学高等学校 学習センター 1階(9:30～)

◇第1日目行事のご案内・進行 (10:10～10:20)：國學院大學文学部 浅野 春二 教授
開催校挨拶：國學院大學久我山中学高等学校副校長 高橋 秀明

◇公開研究授業 (10:20～11:20)

会 場：学習センター3階 図書館

授業時間：10:35～11:20 (45分間)

授 業 者：國學院大學久我山中学高等学校 河野 貴彦 教諭 対象学年：中学3年男子

内 容：学びて時に之を習ふ『論語』で贈ろう後輩へのアドバイス

◇研究協議 (11:30～12:30)

会 場：理科会館3階 階段教室

協議時間：11:30～12:30 (60分)

司 会：本郷中学校・高等学校 井口 辰也 教諭

⇒移動：京王井の頭線久我山駅～渋谷駅 都バス学03系統 日赤医療センター行き「國學院大學前」
昼食は各自でおとり下さい。大学学食（3ヶ所）も利用可能です。

◇史跡研修会 (14:30～16:30) 塙保己一史料館

集合時間・場所：14:30 國學院大學博物館前 先着40名

会 場：塙保己一史料館 2階 講義室

内 容：齊藤幸一代表理事 講義「塙保己一の人と学問」 国重要文化財『群書類従』版木見学
版木を使用した版木の印刷体験

◇同時開催 21日(土)・22日(日)両日開催 國學院大學渋谷キャンパス

國學院大學図書館：教科書関連漢籍等貴重書展示：9:00～19:30(最終入館19:00)

図書館内グループ学習室では「触れて見る 江戸の漢籍」を開催します。

國學院大學博物館：江戸の漢文教科書(訓蒙書)コーナー展示：10:00～18:00(最終入館17:30)

◇懇親会(17:30～19:30)受付:17:00～若木タワー正面入口から入り、右手エレベータで18階にお出下さい。

会 場：國學院大學渋谷キャンパス 若木タワー18階 有栖川宮記念ホール

会 費：会員・一般 6000円 学生3000円

司会進行：國學院大學文学部 鈴木 崇義 准教授

【第2日】6月22日（日）國學院大學渋谷キャンパス

◇受付：國學院大學渋谷キャンパス 5号館 1階(9:00～)

◇第2日目行事のご案内（9:40～9:50）会場：5号館2階 52045301教室

全体司会：大会委員長 小金澤 豊(埼玉県八潮市立八潮中学校)

開会の辞：全国漢文教育学会副会長 増野 弘幸（大妻女子大学文学部教授）

挨拶：大会開催校代表 石本 道明（國學院大學文学部教授）

◇研究発表

〈小・中・高の部〉（10:00～12:00）会場：5号館2階 52045301教室

発表時間20分・質疑10分

(1) 楚辞「漁父辞」実践報告

昭和学院中学校・高等学校 前園 悠太 教諭

(2) 創作した漢詩を生成A Iにて具現化する試み

筑波大学附属駒場中・高等学校 有木 大輔 教諭 川人 武 教諭

(3) 漢文教材と地域探究と ―『孟子』「五十歩百歩」をふまえ、地域課題を考察する―

新潟県立松代高等学校 小林 忠輝 教諭

(4) 「言語文化」の中での漢文学習

明星中学校・高等学校 飯島 崇史 教諭

以上司会：駒場東邦中学校・高等学校 小原 広行 教諭

〈大学の部〉（10:00～12:00）会場：5号館2階 52025302教室

発表時間20分・質疑10分

(1) 楚辞「離騷」に於ける懸隔について

國學院大學文学部 木村 剛大 兼任講師

(2) 江戸後期の藩校教育 ―水戸弘道館を例として―

早稲田大学先端科学研究所 関口 直佑 研究員

以上司会：文教大学文学部 坂口 三樹 教授

(3) 明治期における「者」の訓読について ―『日本外史』『唐宋八家文読本』を資料として―

國學院大學文学部 佐川 繭子 准教授

(4) 教職を目指す学生に興味・関心をもたせる漢文の授業の試み

―『論語』の言葉と日本の近代文学との比較を通して―

大東文化大学文学部 渡辺 恭子 特任准教授

以上司会：都留文科大学 寺門 日出男 名誉教授

◇昼食（12:00～13:10）場所：5号館3階 53045201教室（参加者控室）

※学食は閉まっておりますので、昼食は各自ご用意ください。

大学周辺のコンビニは、地図をご覧ください。



國學院大學博物館 『論語』訓蒙書展示



○開催概要

- 会期 令和7年6月17日（火）～7月13日（日）
- 会場 学術メディアセンター地下1階 國學院大學博物館
- 入館料 無料
- 開館時間 10時～18時（最終入館17時30分）
- 休館日 毎週月曜日（祝日は開館）

主な展示資料(予定)

- 正平版『論語』（14世紀 日本初の版本）
- 荻生徂徠『論語徴』（18世紀 江戸漢学の成果）
- 中根鳳河『論語徴渙』（『論語徴』の解説書）
- 太宰春台『論語古訓』（徂徠学の発展）
- 太宰定保『論語古訓正文』（片仮名付）
- 中村楊斎『論語示蒙句解』（大正時代まで出版）
- 『四書章句集注』（書き入れ本）
- 中興漢学名家録（番付）

※ 今展示は、令和5年に開催した企画展「論語 for Beginners―『論語』と格闘した江戸時代―」のダイジェスト展です。

※ 解説パンフレットも販売いたします（1冊500円）





國學院大學図書館 教科書関連漢籍等貴重書展示



○ 開催概要

- 会期 令和7年6月17日（火）～7月13日（日）
- 会場
学術メディアセンター2階 國學院大學図書館入り口 展示スペース
グループ学習室3(6月21日・22日)
- 入館料 無料
- 開館時間
9時～19時30分（最終入館19時）
- 会期中休館日
https://kaiser.kokugakuin.ac.jp/index.php?page_id=16 を御覧下さい
（右のQRコードから御覧いただけます。



主な展示資料(予定)

- 那波本『白氏長慶集』（『白氏文集』）
- 敦煌本『論語』（巻一 断簡）
- 大内政弘写『古文孝経』（ヲコト点付）
- 直江版『文選』六臣注（活字版）
- 『和漢朗詠集』（室町時代後期写本）
- 狩野典信・惟信画『聖賢図像』（絹本）
- 岡元鳳『毛詩品物図攷』彩色版
- 『唐詩選画本』（江戸中期版本）
- 幸田露伴『支那小説』自筆原稿

触れて、見る 江戸の漢籍(付戦前の教科書)

- 『通俗三國志畫本』
- 『四書章句集注』（大学・中庸・論語・孟子）
- 『史記評林』
- 『日本外史』他

その他、明治・大正・昭和戦前の「漢文教科書」を出品しますので、実際に手に取ってご覧下さい。

※グループ学習室3

※ 来場の際は、開館時間や休館日を事前に御確認下さい。



◇大会開催挨拶（13:10～13:25）学術メディアセンター1階 常磐松ホール

司 会：大会委員長 小金澤 豊（埼玉県八潮市立八潮中学校）

挨拶：國學院大學学長 針本 正行

：全国漢文教育学会会長 詹 満江（杏林大学外国語学部客員教授）

◇シンポジウム（13:30～15:40） 会 場：学術メディアセンター1階 常磐松ホール

シンポジウム 漢文教育から考える「言語文化」

司 会：石本 道明（國學院大學文学部教授）

基調講演（13:30～14:10）

題 目：上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目「言語文化」
— 高等学校国語科の必修教科目における漢文教育 —

講 師：上月 さやこ 氏（文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官）

《休憩 10 分》

討 論（14:20～15:40）

討 論 テ ー マ：漢文教育から考える「言語文化」—その深化と展望

シンポジスト：神奈川県立総合教育センター指導主事 潮田 央 主幹

：國學院高等学校副校長 杉田 隆時 教諭

：山形県立米沢東高等学校 原田 知明 講師

：本会副会長・早稲田大学教育学部 内山 精也 教授

コメンテーター：上月 さやこ 氏

《休憩 20 分》

◇総会・閉会（16:00～16:30） 会 場：学術メディアセンター1階 常磐松ホール

司 会：副会長 増野 弘幸（大妻女子大学文学部教授）

会員総会：会務報告・会計報告・その他

次回大会開催校紹介・学会旗引継ぎ 國學院大學→山形大学

閉会の辞：副会長 内山精也（早稲田大学教育学部教授）

◆常磐松ホール前 オープンスペース

出張予定書店 三省堂 大修館書店 明治書院 明德出版社 東京書籍 桐原書店 第一学習社
汲古書院 亜東書店 東方書店

※販売はいたしません。

6月21日(土) 研究授業

授業者 國學院大學久我山中学高等学校 河野 貴彦 教諭

題目 学びて時に之を習ふー『論語』で贈ろう後輩へのアドバイスー

対象学年 中学3年生男子生徒 使用教科書 光村図書

概要

対象学年の生徒は今年度で中学校を卒業する。そこで、今回の授業では、教科書掲載の章句の学習を踏まえ、生徒それぞれが後輩に贈りたい『論語』の言葉（章句）を選択し、その解説と選んだ理由を添えたメッセージカードを作成し、それをいくつかのグループに分かれて発表・紹介するという活動を試みる。

生徒にとって古典は「昔のもの」とであるという考えが根強い。それゆえ『論語』のみならず、古典は現代の私たちにも生きる教材だと気づいていない生徒が多いように感じる。また漢文の授業というと、語法・文法解説の授業に陥ってしまい、その教材の魅力を十分に生徒が感得できない可能性もある。

本単元の目標として、「長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うことができる。（知識・技能 言語文化（3）イ）」「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。（思考・判断・表現 C読む（1）エ）」「言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。（学びに向かう力 人間性等）」が設定されている。生徒の主体的な活動を通して、古典は現代に生きる自分と結びつけ、活かすことのできる教材なのだと気付かせたい。

塙保己一史料館パンフレット転載

※ Web公開版へは権利の関係で掲載できません。塙保己一史料館のホームページをご覧ください。

塙保己一史料館ホームページ <http://onkogakkai.com/>



学会入会のお誘い

●**本学会の沿革** 本学会は、前身の「大学漢文教育研究会」を改組し、「全国漢文教育学会」として昭和59年(1984)10月に発足しました。その目的は、漢字漢文教育および漢字文化に関する諸問題を研究し、我が国の漢字漢文教育ならびに漢字文化に関する研究の充実発展を図り、あわせて会員相互の親睦を深めることです。これらの目的を達成するために、次のような事業を実施しています。

1. 大会及び総会の開催（年1回）
2. 講演会・研究発表会・教員対象:漢文教育研修会の開催（各年1回）
3. 会誌『新しい漢字漢文教育』の発行（年1回）
4. その他、本学会の目的を達成するために必要な諸事業

現在、小・中・高・大学の教員及び本学会の主旨に賛同する者510名余り（令和7年(2025)3月末日現在）で組織されている全国的組織です。

会員特典（主なもの）

- ① 会誌への投稿、大会等における発表
- ② 会誌『新しい漢字漢文教育』年1回の配布
- ③ 講演会・研究発表会・各種講座等のご案内
- ④ 漢文教育研修会受講料の割引

会員の種類と会費は次の通りです。

普通会員（年額5000円） 学生会員（年額3000円） 賛助会員（年額5000円）

※ 本学会入会ご希望の方は、学会ホームページの申込フォームよりお申し込み下さい。

<https://www.zenkankyo.gr.jp/access/join/>



【本学会編集書籍販売のお知らせ】

● 学会誌『新しい漢字漢文教育』

最新75号まで発刊。バックナンバーを随時販売しております。

● 『朗唱漢詩漢文』第一集～第三集

東洋館出版社（03-3253-8821）

～よみがえる日本語の響き心に残る名詩名句七七～

四六判 各1,365円

名詩名句77首に書き下し文と解説・背景説明を加え、切り絵・写真を添えて紹介しています。総ルビなので簡単に声に出して読めます。

自分の中の日本語を豊かにし、日本語の文体やリズムを身につけることができます。

● 『はじめてであう論語』全3巻

ちょうぶんしゃ
汐 文社（03-3815-8421）

① 家族 ② 友だち ③ 学問

A五判各1,500円+税

小中学校での古典学習を、より充実させるための教材として論語は今、注目されています。「徳育」の観点からも、子どもたちにとってふさわしい教材になるでしょう。本シリーズは、子どもたちに伝えたいメッセージをこめた大切な章句を、原文・書き下し文・やさしい口語訳・わかりやすい具体例と共に紹介します。

● 『声に出そうはじめての漢詩』全3巻

ちょうぶんしゃ
汐 文社（03-3815-8421）

① 自然のうた ② 旅のうた ③ 生きかたのうた

AB判各2,000円+税

小学校高学年から読める漢詩の入門書です。「漢詩」とは何か、また、その歴史を簡単に説明し、日本人に古くから親しまれてきた30首のうたを紹介しています。大きな文字の書き下し文で、声に出して読みたくなり、言葉の美しさが楽しめます。

6月22日(日) <小・中・高の部>研究発表要旨

司会 駒場東邦中学校・高等学校 小原 広行 教諭

楚辞「漁父辞」実践報告

昭和学院中学・高等学校 前園 悠太 教諭

本授業は、楚辞「漁父辞」を教材にして、高校2年生が「個性」と「集団性」について考え、自己形成を進めることを目的とした。屈原と漁父の問答を通じて、屈原の信念を貫く生き方や漁父の主張する現実を受け入れて柔軟に生きる考え方について学ぶことができる。授業の展開は、楚辞の概説からはじめ、屈原が追放された背景や人物像の理解を深めた。本文読解は、注釈をもとに精読した。そこから屈原と漁父の生き方を対比する流れだ。生徒たちは屈原と漁父のどちらに共感できるかを考えた。そして、「個性(反集団性)」と「集団性」のメリット・デメリットを議論し、最終的に生徒達自身がどのようにして生きていきたいかを考えた。

創作した漢詩を生成A Iにて具現化する試み

筑波大学附属駒場中・高等学校 有木 大輔 教諭 川人 武 教諭

本実践は、国語科で取り組んだ創作漢詩をもとに、美術科の授業で生成AIによる画像生成を行い、その経験を手がかりに生徒が自己の漢詩表現を再構築することを試みたものである。画像生成AIとしてAdobe Fireflyを使用し、はじめに漢詩そのものをプロンプトとして画像を生成した。自身の詩のイメージと異なった場合は、書き下し文に改めたり、現代語訳をしたり、英訳したり、より詳細な説明を加えるなど、画像が自身のイメージに近づくようプロンプトを工夫した。本発表では生徒アンケートの分析結果を踏まえ、創造的な学びを深める一手法としての生成AIの可能性について報告する。

漢文教材と地域探究と ―『孟子』「五十歩百歩」をふまえ、地域課題を考察する―

新潟県立松代高等学校 小林 忠輝 教諭

現行学習指導要領では「探究」がキーワードとなっている。国語科でも「古典B」が「古典探究」となり、これまでの知識偏重型から、主体的に読み深めることをとおして、日本の伝統的な言語文化への理解や関心を深めることを目的とした探究科目となるなど、「探究型学習」に重心を置いた学習内容への変更が随所に見られる。本校でも令和5年度から「地域探究コース」を設置し、地域の方々と連携・協働しながら、様々な地域課題を探究し、解決する学習に取り組んでおり、各教科の学習でも積極的に地域探究に資する学習活動を行っている。

そこで今回は、1年次の「言語文化」の漢文の授業で、教科書の漢文教材をふまえて地域課題について学習した実践について報告したい。具体的には、『孟子』「五十歩百歩」の内容と、現代の本校地域が抱える課題との比較をとおして、地域課題の発見やその解決について考察し、協働的な学びをするという探究的学習の試みである。漢文本文の解釈や語彙・句法の学習といったいわゆる本流の漢文指導とは異なるものとなるが、御容赦願うとともに、御指導御助言をいただきたい。

現行の指導要領になり、漢文を学習する機会と意義が、現場に委ねられているように感じます。令和の平均的な高校生は、漢文の学習の意義や面白さを感じているのか、教壇で自問自答の毎日です。以下の内容の観点からこの機会に「漢文と高校生」の距離を考えてみたいと思います。

- 1) 漢文の取り扱いの客観的データ
- 2) 授業で漢文を学習する目的や意義
- * 漢詩（唐詩）、論語、故事成語の授業での取り扱いを元に
- 3) 効果を感じる学習方法や興味喚起の瞬間はどこか
- 4) 大学受験での漢文の取り扱われ方

6月22日(日) <大学の部>研究発表要旨

司会 文教大学文学部 坂口 三樹 教授

楚辭「離騷」に於ける懸隔について

國學院大學文学部 木村 剛大 兼任講師

楚辭は中国文学史上、初めて属人的作者と結び付いた韻文であるといえよう。『史記』の列傳をはじめとする屈原の伝承や後代の注釈が、属人的作者を前提とする楚辭の読みを提示した。しかしながら発表者の問題意識は、以上のような点にあるのではない。楚辭「離騷」の言辞表現自体に、受容者が「個」を見出す要素が含まれるのではないか、というのが発表者の「離騷」検討の方向性である。本発表に於いては、発表者がこれまでに検討を加えたいいくつかの表現を、懸隔という視点で再度捉え直す。「離騷」の言辞中で懸隔が如何に表現されるか、また如何なる効果を有するかを確認することで、「離騷」受容者が「個」を見出す要素についての指摘を試みたい。また懸隔に着目した上で、「離騷」と他の文献とを比較した場合に、「離騷」の特異性が発現するのかを併せて考えてみたい。

江戸後期の藩校教育 ―水戸弘道館を例として―

早稲田大学先端科学研究所 関口 直佑 研究員

江戸時代の教育については、豊富な先行研究が蓄積されているものの、それらは主として学派別に検討される傾向がある。そこで本発表では、時代状況がもたらす学問への影響に焦点を当て、その教授内容の背景を探っていききたい。そして特に、幕末と呼ばれる時世は、国際情勢の変化によって大きく左右された時代でもあり、そうした環境下において求められた人材教育論は、実学的要素が求められる現代の教育論においても、参考に供することが少なくないと思われる。こうした前提を踏まえて時代的、及び実学的教育の要望によって開校したとも言える弘道館教育の内容、及びその精神について触れていく。さらに弘道館の総裁であり、また幕末志士の必読書とされた『新論』の著者でもある、会沢正志斎の教育論についても提示していく。これらの史料を見ていくことで、弘道館の教育が如何にして漢文古典から実学的内容を読み取り、実社会の問題に対応させようとしたのかを紹介していくこととしたい。

明治期における「者」の訓読について―『日本外史』『唐宋八家文読本』を資料として―

國學院大學文学部 佐川 蘭子 准教授

現在の漢文訓読の基準となっている「漢文教授ニ関スル調査報告」（明治四十五年文部省報告、以下「調査報告」と称す）における固有名詞に後置する「者」の訓読には、国語行政や国語教育との整合性を図るという姿勢や、原文を的確にとらえて日本語としての訓読に表出するという意識が窺える。今回の発表では、明治期の訓読を対象として「調査報告」との比較を行い、「調査報告」の訓読がそれ以前のものとは異なるのか否かを明らかにする。また、限られた事例に基づくものではあるが、明治期の訓読の傾向や特徴等についても些か考察を加えたい。調査対象には「調査報告」の用例として引かれる『日本外史』『唐宋八家文読本』を用いるが、ともに明治期には複数種の訓読本が出版され、かつ教科書としても用いられていたことから、明治期の訓読資料としても有用であると考え。併行して、これらのテキストについても整理したい。

教職を目指す学生に興味・関心をもたせる漢文の授業の試み

―『論語』の言葉と日本の近代文学との比較を通して―

大東文化大学文学部 渡辺 恭子 特任准教授

『論語』は、中国古典のバイブル的な存在であり、我が国の漢文学においても多大な影響を与えている。そこで、高等学校においても、授業者は高校生が『論語』の言葉に親しみを感じながら、孔子の思想を違和感なく理解できるよう授業設計を工夫する必要がある。

共通必修科目「言語文化」は、上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める科目として設定された。また、「平成30年告示高等学校学習指導要領」[知識及び技能](2)我が国の言語文化に関する事項アには、「我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること」が挙げられている。このため、将来中学校や高等学校の教壇に立つ教職課程履修者が、教科書にある『論語』の章句と日本の近代文学との比較を通して共通点や相違点を探り、「言語文化」の学びを発展的に捉えて言葉の意味を深めてゆくきっかけとしたい。

本研究は、現役教師はもとより教職課程を履修する学生らが、『論語』と現代に生きる自分自身との繋がりを意識し、生徒が漢文の世界により親しむことができるような授業を行うための試みである。

シンポジウム趣旨

平成28年12月の中央教育審議会答申「学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（40ページ）に、「（グローバル化する社会の中で）古典や歴史、芸術の学習等を通じて、日本人として大切にしてきた文化を積極的に享受し、我が国の伝統や文化を語り継承していけるようにすること、（中略）が重要」との指摘がある。この「古典の積極的享受と文化の継承」は、我々のアイデンティティの基層であるのみならず、社会を構成するための共通認識の形成にも深く関与している。この認識を起点として討論し、会員諸氏に考える材料を提示することが主眼である。